

高田短期大学通信

TAKADA JUNIOR COLLEGE

2002年(平成14年)7月12日 発行 高田短期大学・編集 紀要委員会 第37号

節目の年に思う

学長 久保田 郁夫



本年は高田学苑開校(明治五年・一八七二年)一三〇周年を迎え、六月九日記念式典が盛大に挙行されました。その間卒業生三万七千人を越え、各界に有為の人材を世に送り出してきました。我が短期大学は、その記念行事の一環として来年二月完成を目指す五階建ての新校舎が建設中です。三十七年の浅い歴史とはいえ、学苑を支える重責と大いなる誇りを持つて今後も諸先輩と共に、王道を歩んで行かねばと覚悟を新たにしています。

さて、新しい世紀はグローバル化、少子高齢化、高度情報化、多様化等と言われており、当然ながらこれ等は未来社会の流れを象徴する言葉でもあるだろうが、従来の倫理観では理解でき

ないほど変化しつつあることは確かです。特に情報技術即ちITという言葉がメディアに登場しない日はありません。それ程着々情報化の波が押し寄せていることも事実です。「オフィス情報学科」の学生に限らず、本学で学ぶ学生諸君はこれからの人生を生き抜くためにも、情報関連の勉学を怠つてはなりません。だが、一方でIT革命が進むにつれて、人間の主体性が薄らぐ可能性もあり、人間の尊厳、信頼、慈悲の喪失を懸念せざるを得ません。どんなに「情報化」「機械化」の波が押し寄せてこようと、人間生活の基本は「優しさ」「思いやり」「寛容さ」である。Eメールや携帯電話等を使って済ます無機質な通信連絡パターンだけでなく、お互い理解し合うためにも、直接対面して話し合うことが大切である。ロボットは一方的に話すことが出来るかも知れないが、喜怒哀楽の表情は作れません。機械やITに翻弄され、果ては社会も家庭も学校も、おかしくなりはしないかと憂えるのは私だけでしうか。本学の建学の精神は、つきつめれば、「優しさ」「思いやり」「寛容さ」であることをこの機会に再確認してほしいと念願します。



新一号館完成予想図

幼児教育学科

コーナー

新しい時代の保育者養成
の課題にこえるために



学科長
豊田 和子

ごあいさつ

幼児教育学科では、本年三月に前学科長の杉山常子教授と橋本敏教授が退職されました。両教授のご功績と長年にわたる本学科の教育と研究に捧げられた多大なるご尽力に対し心から感謝申し上げます。その後、私が学科長に任命され重責を実感しております。微力ではございますが、所属教員と力を合わせて本学科の発展のため誠心誠意努力していく覚悟ですので、皆様から一層のご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1 保育者養成校の新カリキュラム
児童福祉法の一部改正に伴い保育士養成のカリキュラムが改正され、本学も新たに保育士養成指定校の申請手続きを行い、三月二十九日付けで厚生労働省東海支局から正式に認可を受けることができました。認可

に際し、専任教員は元より非常勤講師各位からご理解とご協力を賜りましたことにこの場をお借りして謝意を表します。

さて、この度のカリキュラム改正の主眼はどこにおかれたのでしょうか。主な点は、「基礎科目」が「教養科目」となったこと、必修科目と選択必修科目という分類になったこと、

新必修科目として「養護内容」「家族援助論」「障害児保育」が増えたこと、現場実習が強化されたこと、選択科目の内容が大綱化されたこと、等です。改正によって、新時代の保育者を養成する課題が養成校に課せられたわけですが、その背景には時代の変化があります。とりわけ、昨今の子育てをめぐる社会環境の変化により児童福祉施設に求められる役割は広範かつ複雑化しつつある現状です。多くの園で益々、子育て支援事業が取り組まれ、保育者にもそのような知識と力量が求められることになり、従来のように、クラス担当の子どもを相手にする保育だけが保育者の主たる仕事ではなくなりました。そうしますと、多様な保育ニーズに対応できる資質と実践力を備えた保育者を育成することが養成校に求められていることにな

ります。

2 本学科の努力目標

十三年度から一年生に「保育基礎ゼミ」を開設し、二年生の総合演習「ボランティア精神」と合わせて、少人数教育に力点をおく体制が整いました。「ボランティア精神」については前号広報で触れたので省略しますが、小グループでの「保育基礎ゼミ」は、学生が自分で考え、自分の意見をもち、自己を発見していくこと、また、仲間と共同で何かをやり遂げるという人間的なふれあいをベースにした主体学習の授業です。「ボランティア精神」は、地域社会の中の行動力や応用力が求められる体験的学習です。本学ではこのような教育体制によって、自分をしっかり持ち、他人を思いやることのできる人、課題意識をもつ人、ひいては地域の子育てに貢献でき、地域の人たちと交流できるコミュニケーション力と豊かな心を備えた心豊かな保育者を送り出せるように日々努力していきたくと考えています。



ヨーロッパ研修旅行に参加して

幼児教育学科 小澤英理子

今回のヨーロッパ研修旅行は、イギリス、イタリア、スイス、フランスの計四カ国を訪問した。訪問した国々の中で、私は、スイスが最も印象深かった。スイス第一日目に見たライオン記念碑は、今でも鮮明に覚えている。ライオン記念碑とは、一七九二年パリのチュイルリー王宮でルイ十六世一家を身をもって守護し、全滅した七八六人のスイス傭兵の慰霊碑である。



それを間近で見ることができた。自然の岩に彫り込んであり、苦しげに眠り続けているライオンの姿がよく表現されていることに感銘を受けた。

又、現在でも一七九二年の出来事をきっかけに、バチカン市国のサンピエトロ寺院では、スイスの兵隊が活躍している。ここから、歴史を大切にする両国の国民性を垣間見たように思えた。

スイス第二日目は、登山列車

に乗ってGO! 列車から見るアルプスの景色は最高だった。でも、もつとすばらしかったのは、駅を降りた時に空から舞い降りてきた雪。日本で見ると丹雪や粉雪とは違い、六角形の雪の結晶として降ってきた。二〇〇〇メートルを超える場所では、こんなにも違うのかと驚いた。又、アルプスの少女ハイジのヨーゼフこと、セントバーナード犬のティカちゃんとの記念撮影は、私にスイスに来たことを改めて感じさせた。



オフィス情報学科 コーナー

昨秋以降を視野に



学科長
藤田 明

首藤先生のあとを受け、「長一年生で何かと忙しい毎日です。昨秋からこの六月辺りまでを視野に入れながら記して行こうと思います。」

この三月で教養学科が終りになりました。昨年度で何が印象に残ったか、と聞かれたら、オフィス情報コースにおける一月の卒業レポート発表会を挙げてみたい。何年か積み重ねてきた行事ですが、発表者それぞれに内容の濃いもので、これが中間発表だったら、ほかの学生にもいい影響が……と思ったほど。聞く側も真剣そのものでした。

教養学科には二つのコースがあつて、もう一つは会計情報コース。両コースとも、昨年度の就職状況は六ページに示されているように好調でした。

四年制大学・三年への編入は計四名。中部大と鈴鹿国際大後は中国人留学生三名。

三月まで新しいオフィス情報

学科の学生は一年生だけでしたが、この四月からは一・二年生とそろったわけです。

改めてその特徴を情報科目で見ておきましょう。ビジネス系でワードプロセッサ・表計算・データベースなどは基本的技能の修得をめざします。その基礎の上に、メディア系のネットワーク、マルチメディアなどは、個々の課題に対処できる応用力を養成していく。

ネットワーク論・情報社会論など理論的なもの、また情報総合演習のように総括的なものも、これらの体系の中に位置付けられています。

オフィス科目では一年生夏の社会体験実習の実習先に医院が加えられることになりました。

医療事務関係の資格をとりたい二年生は四十七名もあり、そのためのカリキュラム外の集中講義による講座の開設ともこの件は連動しています。



二年生にとっては進路の問題が今や最大の関心事。きびしい状況です。一年生向け「知的に生きていく力をつける講座」が前期の木曜日

四限に開設されました。

四年制大学の三年への編入の件は、三重大人文学部・社会科学科への推薦枠が設けられ、挑戦者が現れています。鈴鹿国際大へは留学生の希望が多い。

留学生の増加は学科にとってトピックスの一つ。二年は十四名、一年は十二名です。ビザの関係で留年は許されません。二年が終われば、今のところ帰国が、四年制大学に編入するかです。日本語を



いかに習得していくか。学内では中国語をしゃべらないといった覚悟が必要だし、日本人学生と親しくなることも大切なこととです。

一方では日本人学生の側も例えば中国語を履修しているみなさん、留学生との会話は絶好の機会。国際交流の草の根レベルで進めるのでなくては、と思います。

以上七項目にわたって記しましたが、みなで力をあわせ、いい学科に育てていきたいものです。

オーストラリアでの生活

オフィス情報学科 榎村 知香

今年の三月にオーストラリアでホームステイを経験し、様々なことを体験しました。全く知らない国へ行き、二週間、異国の家庭へ飛び込んで生活することとは、私にとって不安でもあり、楽しみでもあり、行く前までは、いろいろなことを想像し、「あれをしよう、これをしよう」と考えていました。

この研修では、各家庭に一人ずつ入ってホストファミリーとの生活を体験し、たくさんの方の経験をしました。私が一番印象に残っていることは、家族みんなでマーケットに買い物へ行つたことです。マーケットといつても、想像していた規模よりもはるかに大きく、日本でいう市場みたいな場所でした。お菓子、野菜、衣服、日用品、おみやげなど何でも揃い、三個で二ドルといった売り方だったので、とても安く買いやすかったです。

休みの日には、ハイキングやドライブしながら皆さんの場所へ連れて行ってもらいました。自然が多く豊かなオーストラリアは、動物もたくさん見られました。



した。日本と一番違うところ、それは家族と過ごす時間が非常に長く、会話が長いことです。学校が終わるとバスで家の近くまで送ってもらい、それ以降は自分と家で勉強や話をします。自分のやりたいことをする、それがよく表れていました。学校でも自分の受けた授業を年の差関係なく積極的に受け、休み時間には思いきり遊んでいました。そこで体験した生活から、想像したよりはるかに多くのことを感じ、学びました。優しさとは何か、無限の暖かさとは何か、自由の精神とは何かについて考えるようになりました。もちろんこれからも、ホストファミリーと交流を深めていきたいと思っています。



卒業生からのメッセージ

近年卒業された方から

就職先 就職して嬉しかったこと、辛かったこと 将来の夢 高田短大とは 後輩へのメッセージ



岡田 早世
(幼児教育学科平成十二年度卒)

芸濃町立芸濃保育園
今年で二年目ですが、就職したばかりの頃は自分のクラスを持ったことのプレッシャーで精神的にとっても辛かったです。しかし、今では子供達が「先生」と慕ってくれることが何よりも嬉しいですね。
保育士という仕事をずっと続け、子供達に囲まれ楽しい生活を送っていくことが夢です。

将来の夢に向かって、いろいろなことを学べる所であり、友達や素晴らしい先生方との出会いの場所でもあります。高田短大があったからこそ、今の自分があると言えるほど私にとってとても大切な所です。
実習は実際の保育現場を自分の目でみたり肌で感じる事ができる大切な機会です。授業では学べないこともたくさん体験し、吸収できると思うので頑張ってください。また、ずっと信頼できる素晴らしい仲間をたくさん作って楽しく充実した学生生活を送ってください。



小林 美侑希
(教養学科平成十二年度卒)

三重県信用漁業協同組合連合会
覚えることが多すぎて、本当に大変です。先輩方に迷惑をかけていま

すがみなさんとても親切に、理解できるまで教えてくれるので、がんばる気になれます。

先輩方に安心して仕事を任せてもらえ、誰に頼らずどんな仕事でもこなせる社会人になりたいです。

秘書とパソコン・電話の応対・お茶の出し方・パソコンの使い方等、基本的なことが役に立っています。

自分のやりたいことを見つけて、将来後悔することのないようがんばってください。

長く社会で活躍されている方から
保育を見つめ楽しもう



川村 きみ子
(保育科昭和四十三年度卒)

一日の保育を省みる時も、また楽しいひとときであり、大切にしたい。「遅かったな、ブランコに行くとるでな。」と走り去る仲間を目で追いながら、鞆を手に足踏みをしている姿に、思わず「鞆、先生が掛けようか？」と言ってしまった。振り返った満面の笑みに、弾む足取りに、友達の側で折れんばかりに振る両手に、甘やかしてはなかったと確信するが、明日の様子が気にかかる。細い箱の先端を、三角に潰したロケット。子どもの工夫に成長を感じ、そっと微笑む。コインアイスの容器があったらどうするだろうと、翌日そっと近くに置いてみる。「残念!」「切符はどこで買いますか?」と聞かれ、「いりません!」と答えた運転手さん。その複雑な表情に、切符の紙を用意す

る。いつ使うかな? 言動を推察し、今日から明日を予測する。ゲームのよつで面白い。

メルボルンから



広尾 綾子
(教養学科平成七年度卒)

私は高田短大を卒業した後、すぐに就職をし、それから四年後、幼い頃からの夢であった留学を決意しました。メルボルンを選んだ理由は、勿論、学生の頃に体験した海外研修があったからでしょう。その時に出会ったメルボルンの人々の暖かい心に触れもう一度この地に帰りたいたいという強い気持ちで、留学への決意の手助けになりました。

三年前、オーストラリアに来た時は、ほとんど英語が理解できませんでした。それが証拠に、日本を出る前のJOMの結果は三〇〇点程でした。こちらにきて二年半経った頃、もう一度JOMを受けた時は七八五点あり、今では日常会話には何ら支障もないほどまでに上達しました。現在は、英語を世界中で教えることができる資格を取るためにがんばっています。

そして将来、語学学校を開きたいと思っています。また、私と同じようにこちらでがんばっているのが後輩の安部正隆君です。

彼は半年前にワーキングホリデービザで入国し、現在語学学校で英語を勉強しています。そんな彼もまた、学生の頃に体験した海外研修により留学を決意した一人です。もし皆さんの中で留学を考えている方がいたら、迷わずにぜひがなばってください。

研究余滴

ビジネス実務教育の充実をめざして

オフィス情報学科

真 弓 徳 光

少子化・高校生の四大志向により、短大志望者が減少し、短大はかつて無い厳しい環境に置かれていく。しかしこの減少は必ずしも外的要因のせいばかりではない。社会のニーズに対応した人材育成に全力を挙げれば、短大もそれなりの評価を得られるという思いから五年前に「ポストバブル時代の企業戦略と短大教育」について研究を始めた。

そして、短大志望者の減少は、「バブル期の短大が高度成長の波に乗り、ひたすら四大教育内容を1/2にするだけで短大としての特色ある内容構築への努力が不足していたのではなか」と、激変する社会的環境の変化になかなか対応できず、カリキュラムも学生が期待する魅力あるものが少ないことに起因しているのではないかと考え、短大発足時の設立主旨である職業教育の推進という視点から教育を見直し、当初から担当している秘書学に加え、オフィススタディや社会体験学習など、ビジネス実務教育カリキュラムの充実を目指して研究を続けた。

特に社会体験学習・実習は、普段の授業で教養知識を習得することも重要だが、学んだ知識を応用・活用して、現場で学生自身が創造したり、自主的に自分

探しを実施し、それ以降の学習に新たな発見があるのではないかと考え導入した。

この社会体験実習を通じて、学生たちから、「マナー接遇の大切さを知った」、「自分の中に新たな発見をした」、「いろいろな人と話をしたり、社会の仕組みを知り、勉強になった」等の声が多数聞かれた。このように社会体験学習・実習は、学生自身が何を学び何を習得したいか、社会はどのような人材を求めているかを認識し、その後の学生生活を有意義に送れるようになるの願いを込めて開講した。

昨年実施した自己点検からも、学習内容の見直しや実習先の開発が要求され、さらにビジネス実務教育全体についても、学生たちが自分たちで問題を発見し、考えをまとめ発表できるよう、換言すれば、学生たちの思考力・表現力を伸ばせられるようなカリキュラムや教授法の必要性を感じており、更に今後この点について研究を進めたい。



平成 14 年 3 月卒業生就職先

主な就職先

幼児教育学科

保育所（公立）

津市、鈴鹿市、松阪市、伊勢市、亀山市、香良洲町

保育所（私立）

あかつき保育園、あおい保育園、旭ヶ丘保育園、一色保育園、いそやま保

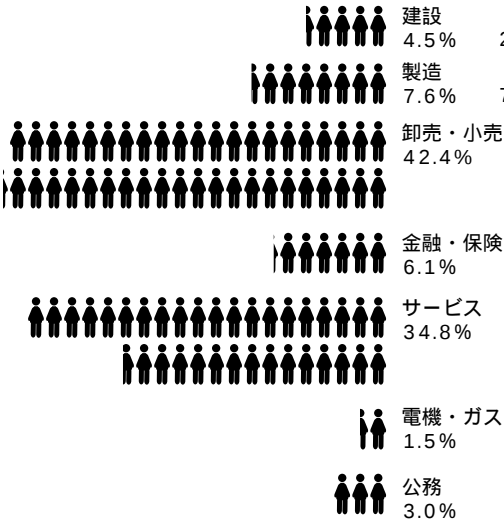
幼児教育学科



施設 2.5%

企業 2.5%

教養学科



建設 4.5%

製造 7.6%

卸売・小売 42.4%

金融・保険 6.1%

サービス 34.8%

電機・ガス 1.5%

公務 3.0%

育園、石薬師保育園、大谷台保育園、片田保育園、上浜保育園、神戸保育園、上里保育園、こひつじ保育園、光陽保育園、さつき保育園、さくら保育園、白塚愛児園、聖マリア保育園、志登茂保育園、多度保育園、つくし保育園、長太ノ浦保育園、津愛児園、鼓ヶ浦保育園、野町保育園、海山道保育園、ながさわ保育園、フジ保育園、わかすぎ保育園など

教養学科

建設業

社中部建設協会、(株)北村組、(株)アイケーディ

製造業

(株)総本家貝新、伊賀越(株)、(株)三水フーズ、(株)ミエミート、(株)タチオカ

卸売・小売業

三重トヨタ自動車(株)、三重トヨベツ(株)、三重ヤナセ(株)、トヨタカローラ三重(株)、三重県醤油味噌工業協同組合、日立メデイカルコンピュータ(株)、三交興業(株)、(株)津松菱、(株)御木

本真珠島、(株)ニユーホンダスパー、日本ペイント工業用コーティング(株)、ススキ自販三重(株)

金融業

(株)百五銀行、三重県信用漁業協同組合連合会

サービス業

(株)三重電子計算センター、幸生観光(株)、伊勢スイミングスクール、(株)華王殿、(株)ケーエスシー、津ゴルフ倶楽部、津老人保健施設アルカディア、三井耳鼻咽喉科、松阪中央病院

岩間眼科、山本歯科医院、加藤信也税理士事務所、水門眼科

公務員

三重県庁

編入・進学状況

同志社女子大学、中部大学、鈴鹿国際大学、ユマニテク医療専門学校、旭理美容専門学校

美良幼稚園、ひかり幼稚園、和順幼稚園など

施設

南部陽光苑、ヤナセクリニック

一般企業

津トップスイミング、(株)文栄堂、(株)豊栄パッケージ

公告

平成13年度における学校法人高田学院の決算は次のとおりですので、当学院寄附行為第34条の規定に基づき公告いたします。

貸借対照表

平成14年3月31日

(単位:円)

資産の部				負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	(6,938,295,287)	(6,968,503,983)	(- 379,644,324)	固定負債	(296,315,643)	(288,428,321)	(78,887,119)
有形固定資産	(4,276,375,073)	(4,361,186,024)	(△ 114,810,951)	退職給付引当金	293,315,643	288,428,321	26,887,119
土地	310,500,677	310,500,677	0	流動負債	(539,294,693)	(498,914,693)	(42,379,972)
建物	3,434,806,011	3,323,674,165	△ 111,131,846	未払金	187,743,272	154,331,884	33,210,343
構築物	129,090,640	151,146,855	△ 22,056,225	商受金	272,132,000	242,324,000	29,608,000
教育研究用機器備品	180,817,036	168,882,946	11,934,090	預り金	27,567,438	27,012,192	555,246
その他の機器備品	11,030,878	9,581,589	1,439,229	学費前払費預り金	47,184,000	58,645,617	△ 11,461,617
図書	174,308,353	186,587,304	△ 12,278,951	学費返済預り金	4,909,000	4,201,000	468,000
車両	5,912,050	7,493,990	△ 1,581,940	負債の部合計	(834,610,303)	(795,343,214)	(39,267,091)
学庫庫	29,919,478	29,919,478	0	基本金の部			
その他の固定資産	(2,661,880,214)	(2,167,404,959)	(494,455,275)	科 目	本年度末	前年度末	増 減
借入金	2,257,500	2,257,500	0	第1号 基本金	6,690,028,302	6,469,854,976	220,173,326
借入金繰上	1,285,980	1,285,980	0	第4号 基本金	150,000,000	150,000,000	0
施設利用権	118,175	137,813	△ 19,638	基本金の部合計	(6,836,028,302)	(6,599,854,976)	(236,173,326)
有価証券	3,838,498	3,838,498	0	消費税込差額の部			
退職給付引当金特定資産	258,490,000	258,490,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
施設設備純増特定資産	704,130,000	654,790,000	149,340,000	現年度繰越剰余収入繰越額	290,992,929	92,315,546	198,347,383
長期大規模保険特定資産	238,432,540	208,521,730	29,910,810	消費税込差額の部合計	(29,992,929)	(92,345,546)	(169,347,383)
財政調整基金特定資産	1,452,040,000	1,157,040,000	315,000,000	科 目	本年度末	前年度末	増 減
長期前払金	1,247,569	1,043,418	204,151	負債の部、基本金の部及び消費税込差額の部合計	(7,781,331,530)	(7,447,943,796)	(333,387,800)
流動資産	(823,096,249)	(888,952,773)	(△ 65,856,524)				
現金預金	285,640,194	279,719,325	△ 5,920,869				
未収入金	154,592,595	16,286,781	58,165,814				
有価証券	30,002,460	0	30,002,460				
修学旅行旅費預り資産	42,192,000	58,645,617	△ 11,453,617				
学費返済預り資産	4,009,000	4,201,000	468,000				
資産の部合計	(7,761,331,530)	(7,447,943,796)	(313,387,800)				

学生自治会

二年間という短い学生生活ではありますが、全学生の皆さんがそれぞれに最高の思い出を創れるようにサポートをしたり、学生一人ひとりの意見を尊重できるような活動をめざして、私たち自治会執行委員七名は今日も協力して頑張っています。

主な自治会活動は、自治会の年間業務を計画し予算をたて、大学祭の企画・立案・実施のほか、卒業アルバム編集、謝恩会の企画・実施、クラブ部長会議、自治委員会、学生大会の開催などです。私たちの活動はまだ始まったばかりですが大変なこともあります。しかし達成感はその倍以上のものと考えるとやる気が湧いてきて頑張れます。

なんとと言ってもやはり学生生活の中の大きな思い出となる「高短祭」には、特に力を入れています。学年を問わず「高短祭」を盛り上げたい！という方は非自治会室(今年は学生課内)に来てください。皆さんのご協力をお待ちしています。

ただ、今年は一号館の改築工事のため多少規模を縮小して体育館と二・三号館周辺になると思います。先生方の駐車場も使

用させていただきたいと思っていますのでご協力よろしくお願ひします。

今年の目標は、一つは、アドバイザー毎に一・二年生合同で展示・模擬店等を行い、一・二年生間の親睦を深めたいこと、二つ目は、模擬店の売り上げの一部を福祉関係施設に寄附するなどみんなでボランティア活動に参加したいこと、三つ目は、私たち学生の年に一度のお祭りは私たち自身で企画・立案・実施し、後片づけ・清掃など最後までみんなできちんと成し遂げたいことです。しかし、これらのことを実行するには執行委員だけではできません。リーダー・サブはもちろん、皆さんの協力がとても必要になってきます。またみんなの意見や考えを聞かせて欲しいのでアンケートには是非答えて欲しいと思います。

今年から自治委員をリーダーとサブと呼んでいます。リーダー・サブを中心に各アドバイザーの積極的な意見や活動を期待しています。各クラブ活動や同好会の皆さんにも期待しています。

パンフレットの協賛広告活動も、後もう少し頑張ってください。よろしくお願ひします。これからも大変なこともあると思いますが思い出に残る素



晴らしい「高短祭」(十一月九日・十日)を成功させるため、みんなで頑張りましょう！そして当日は先生方も含め、全員参加で一緒に盛り上げ、一緒に楽しみましょう。

このようにやりがいのある執行部の仕事をやってみたいと思う一年生の皆さん！自治会室を覗いてください！協力してください！そして是非十二月の自治会執行委員の選挙には立候補してください。

(文責：八重口恵利・若林さつき)

学生自治会
 会長 井上 絵莉
 副会長 近藤 静
 副会長 上田 美和
 書記 八重口恵利
 書記 榎村 知佳
 会 計 若林 さつき
 会 計 若林 智香

同窓会の近況

高田短期大学に入学したとき、建っていた唯一の学舎が、建て直されることになって、時代の移り変わりを感じます。卒業してから校舎が増えて、体育館・音楽室・教養学科の棟と訪れる度に様変わりしていく学校にうれしさと寂しさと混ざり合った気持ちがありました。今また、建て替えになり大きくなっていく様子が寂しさがいっぱいです。入学を希望される学生の増加と学生の希望に添えなかった旧舎だからなのでしょう。

でも、私にとつて思い出いっぱいの校舎でした。山の上に建てられた一棟の建物、その中にみんな詰まっていた。季節の変化をもろに受けて、自然の荒々しさを感じながらの生活でした。本当に、「ありがと」と感謝でいっぱいです。新しい幕開けになるのでしょうか。

さて、高田短期大学の同窓会には、それぞれの年度ごとに理事さんがみえます。十三年度卒業生の酒井絵里子さん・濱野真希さん・松田貴美子・古市幸子さんも理事に加わりました。最

高田学苑樹心同窓会短大部会会長

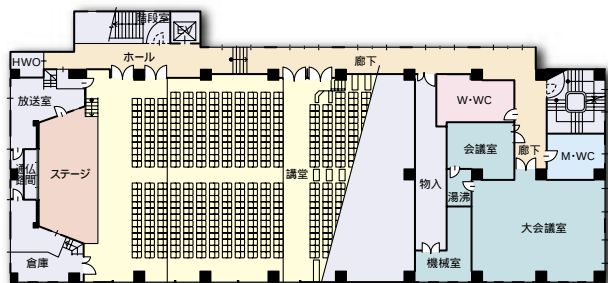
北 端 一 子

近は、年一度の理事会はなく、理事さんに同窓会の事業報告をさせていただいています。

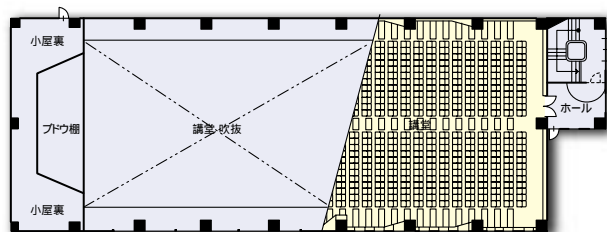
しかし、大学祭に同窓会としての活動があります。バザーをして、その収益で、各年度で開いている同窓会への補助金を出しています。金額は少ないですが足しにしていただけだと始めました。今年度もバザーをする予定です。理事の皆さん、協力してくださいね。同窓生の皆さん、ぜひご参加ください。

最後になりましたが、今年度は高田学苑の開校一三〇周年になります。長い歴史ある学苑のますますの発展をお祈りしております。

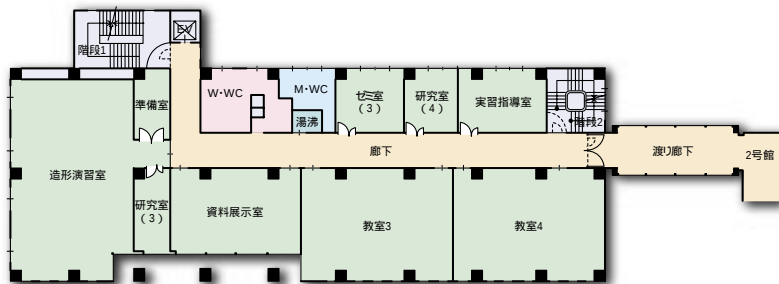




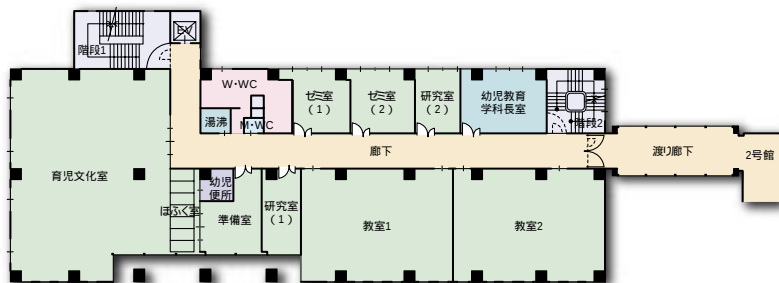
4階平面図



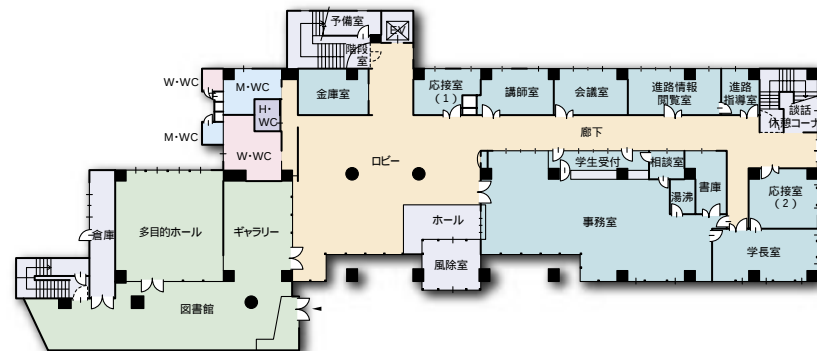
5階平面図



3階平面図



2階平面図



1階平面図

新一号館の工事始まる

平成十四年度の卒業式は、
新一号館講堂で挙行予定

事務局長 中湖 喬

本年は、高田学園開校一三〇周年に当たりますが、学苑では六月九日に記念式典が挙行されました。本学苑では、一三〇周年記念事業の一環として、一号館を改築することになりました。旧一号館は、昭和四〇年に保育科（現・幼児教育学科）の校舎とし

て建築されたものですが、オフィス情報学科の設置や施設設備の整備に伴い、三十七年の歳月の中、用途が種々変更し、今日に至りましたが、その間、建物の老朽化が進み改築することになりました。旧一号館は、本年四月二十七日より解体が始まり、五月二十九日には、その姿がすっかり消えました。多くの歴史を刻んできただけに寂しい思いではありますが、今は、新校舎の完成に希望を抱いています。

新築する一号館の概要

《外観》

- 玄関ロビー部、その上部を五階まで、また、渡り廊下部をガラス張りにし、採光を十分とり入れ、日だまりに集う憩いの場となるよう工夫しました。三階までは柱型を見せ、南東面の外壁にタイル張り、石張りとし、重厚感を出しました。

《内観》

- 玄関ホールを大きくとり、明るく

《敷地に対する配置》

- 建物前面アプローチに車寄せ庇を大きくとり、雨に濡れず乗降ができるようにした。また身障者用を合わせて、来客駐車場（二十一台）を確保しました。

このほかにも、皆が快適に使用できる工夫が多々なされていますが、紙面の関係上省略します。尚、来年二月には完成し、平成十四年度の卒業式は、新一号館五階の講堂で挙行する予定です。

編集後記

通信は、「秋風とともに」発行されましたが、本年度は「蟬の声と競争で」の発行となりました。執筆者の方々には、短い期間での投稿のご協力、本当にありがとうございました。旧一号館が消えたことは寂しい限りですが、次年度は表紙にある新一号館についてお伝えできるでしょう。ご期待ください。